

---

# ポーカーフェイス

枝豆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポーカーフェイス

### 【Zコード】

Z0377B

### 【作者名】

枝豆

### 【あらすじ】

無口な彼に話しかけても無視無視無視。トラウマになってしまった彼女。校庭を走る彼の姿をいつも見ていた彼女。今日はいつもと違う彼の姿を見ることができた。

「はあ、今日も離しかけることができなかつた。」誰も居なくなつた教室で、ポツリと呟く。

# 「こんな私、嫌い！」

独り言のはすなのに  
なぜか空しく木靈する

正解して、とのぐるり経ったんだな、か

この期間で  
彼と交際した言葉は数えられるほ  
ど他の女の子の呼びいかないがするの一。

私が勇気を出して声をかけても、無視。

無花 無花 無花

声をかけることが、軽いトラウマになりつつある今日この頃です。

「はあ。

今まで何回ついただろつ、彼を思つてつくなめ息

私の目は、いつも彼を追っている。

今たて  
そ二た

陸上部で、長距離の選手の彼はクルクル、校庭を走っている。真剣な表情である一点だけを見て走る、彼のその姿が好きで、いつも、気がつかないうちに何十分も彼を見ている。

そんな事をしている私に気付いたとき、恥ずかしい様なちょっと嬉

そして、顔を埋めていつも口にする言葉。

「なんて、恥ずかしい」としゃるんだわ！」。」

この一言で、さうに恥ずかしさが増していく。

ふと彼のほうを見ると、彼もこっちを見ていた。

視線がぶつかり合う。

どつかで聞いたことがある気がするが、  
時が止まったように、一瞬が永遠に感じた。

私は、ずっと見ていたかった。

でも、話すことができない私にとつてそれはとつても大変なことだ  
った。

私は、自分の足を見ていた。

何分か過ぎ頬の火照りが冷めたころ、私は走り続ける彼の姿を見た。  
ほんのり頬が赤くなつていて、こっちを見ている。

明日、話しかけてみよう。

大きな声で、はつきりと。  
朝の挨拶からはじめてみよう。

私は、頬たたき気合を入れた。

(後書き)

軽く、実話です。

今私がしている恋もこんな感じです。

片思いをしている方・恋を成就させた方、ぜひ感想や評価をください。

お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0377b/>

---

ポーカーフェイス

2010年10月13日16時24分発行